

写真撮影：上坂 暢一



11月
発売予定!

現代貨物列車を楽しむ

11月
2018年

N 3037-2 予価 ¥10,200+税
EH500 3次形 後期仕様 **New**
JR貨物 承認申請中

※画像は既存製品のEH500です。



▲側面に描かれた「金太郎」ロゴはこの機関車ならではの特徵。

赤いボディに8軸駆動の交直流機、その重厚で勇ましい姿はまさに「金太郎」の名前が相応しい機関車、EH500。主に首都圏で東北、下関、門司の関門トンネルで貨物の輸送を担っています。赤とグレー、白で構成されたボディの側面には大きく「JR貨物」マークと、愛称である「金太郎」のロゴが描かれています。日本の機関車としては珍しく2つの車体を繋いだ構造をしていて、高い粘着性を持ち機関車の重連運転が必要な貨物列車でも単機で輸送できる性能を備えています。

この「金太郎」ことEH500は、製造された時期によってライトの位置や塗装など、形態に違いが見られます。今回製品化する3次形の後期仕様と呼ばれるグループは、圧縮機換気屋根を新たに装着しています。前面の運転室窓まわりに施された黒色の塗装がなくなり、ヘッドマークステーは非装備、屋根上のGPSアンテナも装着していません。また、LEDのテールライトは消灯時に白っぽく見え(掲載写真参考)、屋根回りは機器が増え、顔立ちはずきりとした印象になりました。模型でもこの形態差を再現いたしますので、既存製品との違いをお楽しみいただけます。タンク車、コンテナ貨車のいずれも牽引を行う機関車なので、お好みの貨車を繋いでいただき、運転いただけばと思います。

平成生まれの
金太郎

既存製品との違い

EH500 3次形 後期仕様
※画像は試作品になります。



前面部 ヘッドマークステーの有無



屋根上部分 屋根上機器の違い



貨物列車での運転を楽しむために。
機関車は単機で走ることもありませんが、やはり「牽くもの」があってこそ運転をより楽しめるものです。ここではコンテナ貨車と、積載するコンテナを紹介いたします。タンク車については次のページで改めてご紹介させていただきます。

JR 貨物承認済
10-1433 ¥1,800+税 2両セット
コキ107 コンテナ無積載

JR 貨物承認済
23-571 ¥1,100+税 5個入
19Dコンテナ(新塗装)

日本石油輸送商品化許諾済
23-572 ¥1,100+税 5個入
UR19Aコンテナ(日本石油輸送・ピンク帯)

JR 貨物承認済
23-501 ¥900+税 5個入
20B形コンテナ

11月
発売予定!

New

幻の銀タキ タキ143645

特別企画品

N 10-1515 予価 ¥8,600+税
タキ43000 日本石油輸送
(黒・青・シルバー) 8両セット

日本石油輸送 商品化許諾申請中
写真撮影: 川崎 大輔

1両だけの個性派
タンク車

現在全国各地で活躍しているタンク車のタキ43000の中で、一際目立つ銀色のタンク体を持つのがタキ143645、通称「銀タキ」です。他のタキ43000と違いステンレス鋼でタンク体が出来ており、車体が無塗装のため素材であるステンレスの鈍い輝きを放っています。台車もTR215Gという他とは異なるものを装備しており、個性的な車両です。他とは異なる姿をしています。一般的なタキ43000と同様ガソリン輸送専用のタンク車で、他のタンク車と混ざって活躍しています。

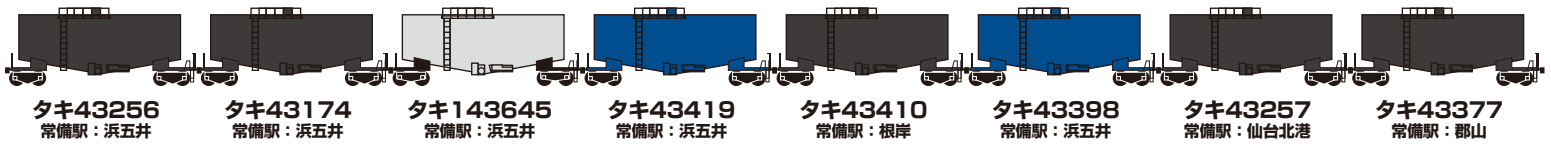
模型でお楽しみいただく際は、長編成のタンク貨車の中に1両だけ混ぜておくと、編成の良いアクセントになります。もちろん、実在するのは1両ですが、何両も繋いで走らせることができるのも、模型ならではの楽しみ方です。

8両セットの中にある
もう一つの個性派

今回の8両セットは銀タキの他に、黒い車体と青い車体のタキ43000が含まれていますが、今回の青い車体のタキ43000は既存製品とは異なる仕様で製品化したものです。元々タキ43000の塗装は所属会社により塗装が分けられており、黒色が日本石油輸送株式会社、青色が日本オイルターミナル株式会社、青色が日本オイルターミナル株式会社に所属する車両です。ですが今回の青い車体のタキは、転属に伴い所属が日本石油輸送株式会社になりつつも、元の塗装を維持している車両で、ロゴマークや表記類のみが日本石油輸送株式会社のものになっています。見た目が際立つのは「銀タキ」ですが、他にもこのセットならではのタキ43000が楽しめます。

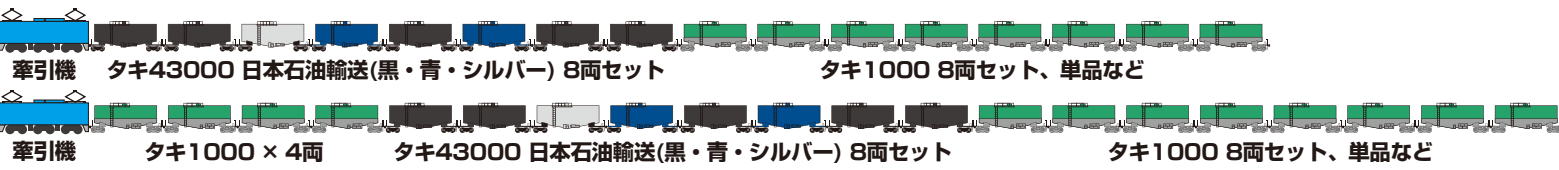
お好みの牽引機とともに、個性豊かなタンク車が連なる貨物列車の運転を楽しんでいただければと思います。

セット構成



編成例

タキ1000と混結して、14~20両ほど繋いだ姿が実車では見られます。今回ご紹介するのはあくまでイメージで、本やWEBなどの資料をもとに、実車通りの編成を再現するのも楽しみ方の一つです。



関連
製品